

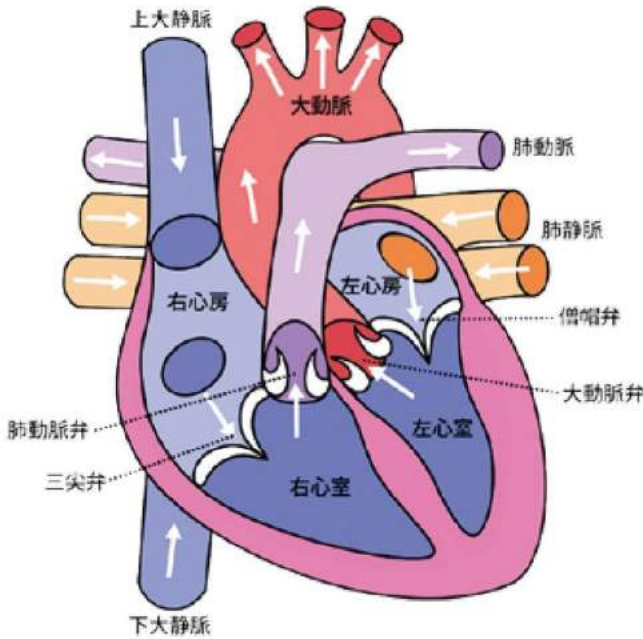
循環器内科のご紹介

副院長 兼 循環器内科部長

富田 威



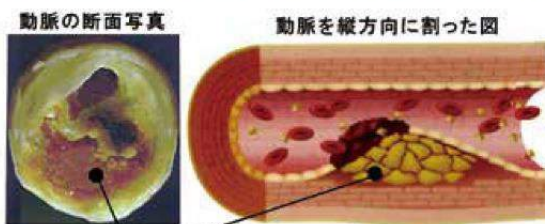
今回は循環器内科がどんな病気を担当している診療科なのかを全般的にご紹介し、それぞれの病気の原因や検査方法、治療法などの詳細は次の機会に説明させていただきます。循環器内科は血液を送るための臓器（心臓）や通り道（動脈や静脈）の異常を治療することや、その予防を担当しています。心臓はポンプとして血液を全身に絶え間なく送り出しています。血圧は正常でも120 mmHg程度ありますので、心臓はその圧力を作るための強力な筋肉（心筋）で構成されています。その心筋が収縮する力が弱くなったり、拍動のリズムに異常が生じたり、血液を全身に行き渡らせるための動脈に異常が生じると体が必要としている十分な血液を送ることができず、様々な病気を引き起こします。このようにさまざまな心臓や血管の病気を循環器内科は、担当しています。



1、動脈硬化と心臓病

動脈硬化とは血管にコレステロールなどがたまり、血管が狭窄したり（細くなったり）、閉塞する（詰まる）状態です。動脈硬化のために血管が細くなると、その先の臓器に血液が十分届かなくなり様々な症状を引き起こします。そして、時には命に関わる重篤な状態に陥ります。動脈硬化は全身の動脈におきますが、代表的な臓器は心臓や脳、四肢の動脈です。心臓での動脈硬化は**狭心症**や**心筋梗塞**になります。脳血管では脳卒中を引き起こし言語障害や麻痺などに至ります。下肢での動脈硬化は**閉塞性動脈硬化症**と言い足の冷えや歩行時の痛み、重症になると壊疽にいたります。他には、腎臓の動脈硬化では腎不全や高血圧の原因になります。有名な内科医であるウィリアムオスラーは「人は血管と伴に老いる」という名言を残していますが、まさに動脈硬化＝老化と言えるでしょう。

動脈硬化で血液が流れなくなる!

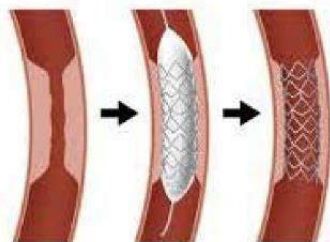


コレステロールなどがたまり狭くなった動脈

このように動脈硬化は様々な病気の原因となります。そのため、まずは動脈硬化にならないようにすること（予防）がとても大切です。つまり、無症状の時から治療することが肝心です。オスラーは次のようにも言っています。「たいていの人は、剣によるよりも、飲みすぎ、食いすぎによって殺される」。暴飲暴食が原因となる高血圧、糖尿病、脂質異常症（コレステロールや中性脂肪が高い状態）、高尿酸血症が主な動脈硬化の原因であることから表現されたものと思います。これらは生活習慣病とか、

最近ではメタボリック症候群と言われています。健康診断の結果でメタボリック症候群と言われている人はもちろんですが、これらの項目の1つでも該当する異常があれば、病院にかかり早期から治療をすることが大切です。とくに、家系に心臓病や脳卒中の人がいる方は要注意です。

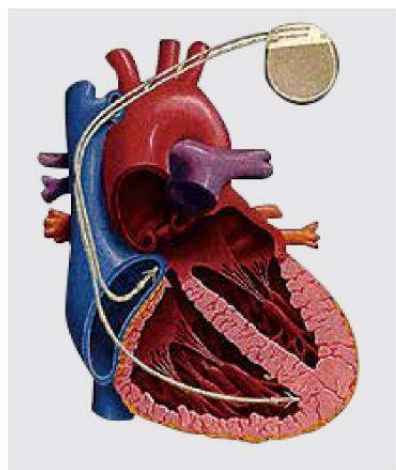
狭心症や心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症の検査には動脈造影検査があります。造影剤をカテーテルという細長い管から動脈に直



接注射することで血管の狭窄や閉塞を調べる検査です。治療はバルーンやステント（金属の枠）を用いて正常な血管径に回復させます（上図）。

2、不整脈

心臓は概ね1分間に60回から80回程度で規則正しく拍動しています。もちろん睡眠中は50回台に低下しますし、運動中は



100回を越えることもあります。このような正常な脈拍数の範囲を超え、低すぎたり（徐脈）速すぎたり（頻脈）、あるいは規則正しい拍動ではなくなったりする状態（脈の乱れ）が不整脈です。症状は様々ですが、脈拍数の異常や脈の乱れによる動悸や胸部不快感が主になります。さらに重症になると十分な血液が心臓から送ることができず、意識消失や突然死の原因にもなります。

徐脈の原因となる病気には拍動のリズムを作れなくなる**洞不全症候群**と、リズムの伝達ができなくなる**房室ブロック**があります。いずれも体が必要な心拍数が得られず、失神や息切れとして症状に現れます。治療はペースメーカーを体内に植込み、必要



な心拍数を確保します。

頻脈の原因となる病気はたくさんあり、軽症の不整脈から重症の不整脈まで程度もさまざまです。お薬による治療が一般的ですが、最近ではカテーテル心筋焼灼術による根治治療が行われることが多くなっています。頻脈発作で頻繁にお薬の頓服や病院での点滴治療を受けられている方は当院循環器内科に相談してください。

心房細動という脈がバラバラに乱れる不整脈は、動悸などの症状の他、脳梗塞の原因になります。脳梗塞の約30%は心房細

動など心臓の原因があると言われています。初回の脳梗塞で命に関わる非常に重症の脳梗塞になることが多く、脳梗塞の予防が大切です。最近是新薬の登場で安全に予防ができるようになっていきます。ご自身の脈拍を1分間測定して規則正しく拍動しているかたしかめ(上図)、脈に乱れがないかを確認し、異常を感じた時は是非相談してください。

3、心不全

心臓は一日約10万回拍動し、全身に血液を送り出しています。このポンプとしての機能が低下し(心臓の収縮が弱くなる)、十分な血液を送ることができなくなる病気が心不全です。心不全になると足のむくみや倦怠感、息切れが現れます。また、夜中に息苦しくて目が覚めてしまうこともあります。心不全の原因で多い病気の1つに心筋梗塞があります。心筋が壊死し筋肉量が減ってしまうと収縮する力が弱くなり心不全となります。逆に高血圧が長期間未治療で放置されると心筋が肥厚して拡張しにくい心臓になり、収縮は正常にもかかわらず心不全になることがあります。そのため高血圧は早期に治療を開始しないと心筋梗塞

や脳卒中の原因となるだけでなく心不全の直接的な原因になりますので決して放置しないでください。他には弁膜症も心不全の原因となります。健康診断で心雑音を言われた方は是非当院で心臓超音波検査を受けてください。

しかし、心臓病になってもリハビリテーションによって病状が改善することが知られています。リハビリテーションには適切な負荷をかける運動療法と食事内容や日常の注意点を説明する生活指導などがあります。心筋梗塞や心不全もリハビリテーションを行った場合、行わなかったよりも予後が改善したという報告があり最近とても注目されています。当院でも心大血管リハビリテーション室を設置し、心臓病を患っても社会生活に復帰できるように、そして再発しないような体質改善を目指すような心リハの計画をしています。

当院の循環器内科は以上のような循環器疾患の急性期から回復期、そして慢性期まで一連の診療体制を整えることになっています。

以上、循環器内科で診療する病気を紹介させてもらいました。次回はそれぞれの病気を詳しくご紹介したいと思います。